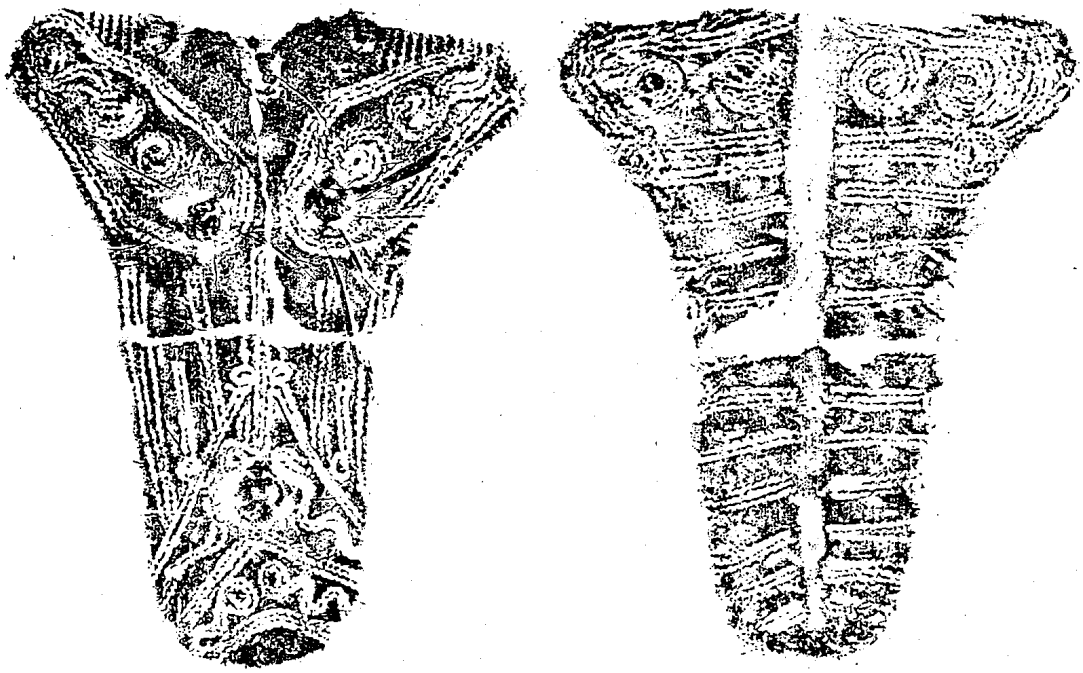
慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	青森市三内出土の大形土偶
Sub Title	
Author	清水, 潤三(Shimizu, Junzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1964
Jtitle	史学 Vol.37, No.1 (1964. 6) ,p.44- 44
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	余白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19640600-0044

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.



青森市三内出土土偶

青森市三内出土の大形土偶

清　水　潤　三

上の図に示した土偶は、清水が故成田彦栄氏と共に、青森市三内稲荷林の遺跡から発掘したもので、胸部と胴部が二回の発掘で別々に出土し、整理に当つて同一個体に属することが判明したのであるが、頭部は周辺を継続調査しても、ついに見出されずに終つている。全体が奴凧のような形をなし、胴の下端は円形で、脚部を省略している点は、円筒式土器に伴う土偶の通例に従い、胴がやや長めである点が注意される。また他の既知の資料から推して、頭部は恐らく富士山のような形をした簡単なものであったろう。表面には円筒状の三個の突起があり、それぞれ乳房と臍（或いは陰部）をあらわし、文様は表裏とも、撚糸を押しつけて、楕円、不整円、波状、平行線などを画き、表面では三個の突起を中心に、比較的複雑な意匠が見られ、色調、焼成と相まち、円筒上層式の特徴を示す。現在高一八・二糎、両腕の最大幅一四・六糎という寸法は、ほとんど他に例を見ない大きさで、文様が入念で優れているのも、極めて大形であることと相応ずるのかもしれぬ。なお三内遺跡については重要な問題が多いが、今回は一土偶について記すに止める。